

令和 7 年度第 4 回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

○令和 7 年度 鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・・ P 1

○【資料 1】令和 7 年度第 3 回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・ P 2

○【資料 2】今後の鈴鹿亀山地域における高等学校の学びと配置のあり方について・・ P 5

..... 再 掲 資 料

【再掲資料 1】鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（R 8 年度）・・・ P 7

【再掲資料 2】鈴鹿亀山地域中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）・・・・・・・・ P 10

【再掲資料 3】鈴鹿亀山地域中学校卒業者数と県立高等学校入学定員の推移と予測・・ P 11

【再掲資料 4】令和 22 年度までの鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の

総学級数と当協議会の協議について・・・ P 12

【再掲資料 5】鈴鹿亀山地域の中学校卒業者進路先の推移・・・・・・・・・・ P 13

【再掲資料 6】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への入学状況・・・・・・・・ P 14

【再掲資料 7】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等・・・・・・・・ P 15

【再掲資料 8】鈴鹿亀山地域からの進学者数が多い他地域の県立高等学校（全日制）

における通学時間別生徒数と割合・・・・・・・・ P 17

【再掲資料 9】鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果について・・・・・・・・ P 18

【再掲資料 10】学校規模と教育環境について・・・・・・・・・・ P 25

【再掲資料 11】次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて・・・ P 27

【再掲資料 12】学校施設の老朽化の状況・・・・・・・・・・ P 28

【再掲資料 13（一部改訂）】令和 5 ～ 7 年度の協議における主な意見・・・・・・・・ P 29

令和7年度 鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	区 分	所 属 等	名 前
1	学識経験者	三重大学教育学部 准教授	市川 俊輔 いちかわ しゅんすけ
2	地域有識者	鈴鹿商工会議所 相談役	内藤 俊樹 ないとう としき
3		亀山商工会議所 参与	山本 安夫 やまもと やすお
4	市町教育委員会 教育長	鈴鹿市教育委員会 教育長	廣田 隆延 ひろた たかのぶ
5		亀山市教育委員会 教育長	中原 博 なかはら ひろし
6	県立高等学校長代表	県立白子高等学校 校長	水谷 正樹 みずたに まさき
7	小中学校長代表	鈴鹿市立平田野中学校 校長	辻井 康博 つじい やすひろ
8	小中学校P T A代表	鈴鹿市P T A連合会 代表 (鈴鹿市立白子中学校P T A会長)	村田 多恵子 むらた たえこ
9		亀山市P T A連合会 代表 (亀山市立中部中学校P T A会長)	中根 直人 なかね なおと
10	高等学校P T A代表	高等学校P T A連合会 代表 (県立神戸高等学校P T A会長)	市川 佳奈 いちかわ かな
11	小中学校教職員代表	鈴鹿市立庄内小学校 教諭	谷口 哲也 たにぐち てつや
12	高等学校教職員代表	県立飯野高等学校 教諭	和田 馨 わだ かおる

令和 7 年度第 3 回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 7 年 1 0 月 2 8 日（火曜日） 1 9 時 0 0 分から 2 1 時 0 5 分まで
- 2 場所 三重県鈴鹿庁舎 4 6 会議室
- 3 概要

これまでの協議をふまえながら、1 5 年先に想定される高校の学びと配置のイメージおよび、令和 1 0 年度までに想定される当地域の県立高校の学級減への具体的な対応案について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

< 1 5 年先に想定される学びと配置のイメージについて >

- これまで協議してきたように、今後も鈴鹿亀山地域の子どもたちに、多様で豊かな学びを提供することを第一の価値観に据えて検討していくことを、「学びと配置のあり方の方針」に明文化してはどうか。（水谷委員）
- 中学校卒業者数が減少する中、県立高校の統合の必要性は理解しているが、地域外へ進学する生徒が多い当地域の状況への対応を講じたうえで、統合の議論をすべきではないか。（内藤委員）
- 飯野高校の英語コミュニケーション科と応用デザイン科には、他地域からも多くの子どもたちが入学しており、こうした学科は、県全体でどこかに維持していく必要がある。（和田委員）
- アンケート結果を見ると、生徒は、主に通学のしやすさや学びたい学科やコースがあることを理由に高校を選択しているが、地域外の工業科や商業科へ進学しているのは、通学しやすいからではなく、地域内にこうした学科がないことが大きな理由であると考えている。それを県教育委員会が、通えるところに選択肢があるからよいというのであれば、地域別に活性化協議会を設置して議論する意義がなくなるのではないか。（内藤委員）
- 中学校卒業者数が大きく減少するとはいえ、1 5 年先に鈴鹿市内の全日制高校が 2 校に集約されるとあるが、学校としての選択肢が少なすぎて、かえって他地域への流出が進んでしまうのではないか。（中根委員）
- 他地域のように、当地域でも 3 0 人、3 5 人学級を導入すれば、高校再編の時期を遅らせることができるのではないか。（和田委員）
- ⇒（事務局）教職員定数は 1 学級 4 0 人として定められるため、少人数学級を導入すると、学校現場に負担を強いることになる。そのため、学級減により地域から専門学科の学びが失われる場合など、極めて限定的に運用している。
- 県教育委員会は当地域に魅力ある高校をつくっていくという思いが足りないのではないか。例えば、飯野高校のように地域外からたくさんの生徒が集まる魅力的な高校をつくれば、想定される学級数が増えることもありうるのではないか。また、小中学校の学級編制標準が 3 5 人になってきている中で、1 5 年先までには高校にも導入される可能性が高いことも考慮すれば、1 5 年先に 1 2 ～ 1 4 学級で、鈴鹿市内に 2 校程度という数字も不確定要素が大きい。（廣田委員）

- 15年先の中学校卒業生数が1,400人ということは、1学級40人として35学級分あるのに、全日制の県立高校だけの数とはいえ、なぜ12～14学級にまで減るのが理解できない。地域外への進学を食い止める手だてを早期に講じることで、学級数の減少は、抑えられるのではないか。(内藤委員)
- 中学校卒業生数が15年先に現在の6割程度となるのであれば、県立高校の定員も現在の6割の17学級程度となるのではないか。私立高校に流れることを想定して12～14学級としているのであれば納得できない。(辻井委員)
- 15年先に鈴鹿市内の県立高校は2校程度、令和10年度に石薬師高校募集停止という報道内容が独り歩きしたことで、石薬師高校の在校生や進学を希望していた子どもたちがショックを受けたり、次はどの高校がなくなるのかといった不安が保護者の間で広がっている。この協議会が当地域の県立高校を活性化し魅力を発信していくためのものであるならば、15年先に想定される学級数は明記しないほうがよいのではないか。(市川(佳)委員)
- 「15年先の学びと配置のイメージ」における学校数については幅を持たせた書き方とし、次年度以降も引き続き協議してはどうか。(山本委員)
- 15年先に鈴鹿市に2校程度となったときに、大学進学ニーズに対応する高校は6学級を下回らないという条件や、当地域の特色ある学科やコース、定時制課程などがどのようになっているのか想像がつかない。選択肢が少なくなると、中学校における進路指導も難しくなる。(辻井委員)
- 仮に学校が集約されるとしても、学力的に厳しい子どもなど、多様な子どもたちが迷わず選択できるような教育環境を維持してほしい。(谷口委員)
- 現在の進路状況をもとに想定した学級数は、今後変わりうるものであり、その数字が出てしまうのは怖い。地域外への流出を防ぎ、逆に他地域から集まるような新しい高校をつくってほしい。(谷口委員)
- 生徒は市町の枠を越えて希望する高校や就職先を選択している。今後想定される学級数など、具体的な数字を示すことでより議論を進め、他地域よりも早く魅力的な再編の方向性を示したほうが、当地域に生徒が集まるのではないか。(水谷委員)
- 「15年先の学びと配置のイメージ」については、数字を前面に出さずに「学びと配置のあり方の方針」に基づいて、具体的にどのような高校づくりをめざすのかを前向きに表現してもらいたい。(中原委員)

<令和10年度までに想定される学級減に対する具体的な対応(案)について>

- 石薬師高校の募集停止というマイナスな話題がいきなり出てしまったと感じており、情報発信の仕方については、十分配慮してもらいたい。(市川(佳)委員)
- 石薬師高校が募集停止となった場合、石薬師高校を希望している子どもたちの受け皿となる高校があるのか心配である。(村田委員)
- 石薬師高校については、一気に募集停止とするのではなく1学級でも残してほしい。募集停止となっても、地域の中学校卒業生数に見合うだけの定員を置くから大丈夫というのではなく、石薬師高校での学びに魅力を感じて進学を希望する子どもたちの受け皿がほしいという、保護者の思いを理解してほしい。(市川(佳)委員)

- 石薬師高校が募集停止となったとしても、石薬師高校への進学を希望していた子どもたちを含めて、地域の県立高校がしっかりと受け入れ、幅広い学力層の多様な生徒に対応していこうと、地域の県立高校の校長で共有している。(水谷委員)
- 稲生高校では、入学後に自分の興味関心に応じて6つのコースを選択している。「工業等の学びについては、今ある学びを充実させる」とあるが、そうすることで今ある学びの選択肢が失われることのないよう、留意して進めてほしい。(水谷委員)
- 工業等の学びについて、稲生高校のコースの充実を想定しているのであれば、普通科目の単位数が減ったとしても、できるだけ専門科目の単位数を増やすことで、充実を図ってほしい。(内藤委員)
- 多様なニーズへの対応を大切にするのであれば、特別支援学校のことについても言及したほうがよいのではないかと。(廣田委員)
- 白子高校では、特別な支援を必要とする生徒に対し、「通級による指導」を先行して実施しており、この取組の成果を地域に広げていきたい。(水谷委員)

今後の鈴鹿亀山地域における高等学校の学びと配置のあり方について

これまでの協議やアンケート結果をふまえ、以下のように整理しました。

1 学びと配置のあり方の方針

※ 下線部は前回から加筆修正した部分

- 当地域の子どもたちに多様で豊かな学びを提供することを第一の価値観に据えて検討する。
- 今後の学級減への対応については、15 年先までの中学校卒業生数の減少をふまえたものとする。
- 今ある学びをそのまま残すのではなく、よりよい形で充実させるという発想を大切にする。
- 校舎の新築や建替えも視野に入れ、地域の子どもたちが地域で学べる環境や、他地域から子どもが集まるような新しい学校をつくるという方向で検討する。
- 当地域には職業系専門学科が少ないことから、普通科のコースを含め、専門性の高い学びや多様な学びの選択肢の維持・充実を図る。
- 大学進学ニーズに応える高校が地域には必要であり、できるだけ規模を維持し、充実を図る。具体的には、1 学年あたり 8 学級あることが望ましく、また、地域全体の学級数が減少する中、やむを得ず学校規模を縮小する場合も、1 学年 6 学級を下回らないようにすることが望ましい。
- 部活動の活性化や学校行事の充実のためには、一定の学校規模があることが望ましく、部活動の活性化のためには、1 学年あたり 4 学級以上あることが望ましい。
- 外国につながるのある生徒や特別な支援を必要とする生徒、不登校を経験した生徒など、多様な生徒が安心して学べる教育環境を実現する。
- 多様なニーズに対応するため、全日制課程だけでなく、定時制や通信制課程のあり方も含めて検討する。
- 通学方法や通学時間など、通学に係る状況を考慮する。通学時間については概ね 90 分以内、できれば 60 分以内となることが望ましい。

2 15 年先の学びと配置のイメージ

※ 下線部は前回から加筆修正した部分

- 当地域の中学校卒業生数は、令和 22 年 3 月には、令和 7 年 3 月の 2,268 人と比較して約 6 割となる 1,400 人にまで減少することが見込まれる。当地域の県立高校（全日制）の総学級数は、中学生の進路状況が現在と大きく変わらなければ、1 学年あたり 12～14 学級程度となることも想定される。
- こうした中、「1 学びと配置のあり方の方針」をふまえ、校舎の新築や建替えを含めて検討しつつ、一定の学校規模を保ちながら現在の 6 校を再編し、子どもたちの豊かな教育環境を実現していく必要がある。
- 亀山市内の 1 校は、当地域内の通学環境を考慮し、周辺地域のニーズに応える高校として存続させる。
- 鈴鹿市内の 5 校は、大学進学ニーズに応える観点と、他地域にはない特色のある学びや工業をはじめとする専門性の高い学びなど多様な学びの選択肢を提供する観点を重視しながら、学びの集約を図る。
- 全日制課程だけでなく、定時制や通信制課程のあり方も含めて検討することで、多様な学びのスタイルの実現をめざす。

3 15 年先を見据えた令和 10 年度までに想定される 3 学級減への具体的対応

※ 下線部は前回から加筆修正した部分

- 大学進学ニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる高校を地域に 1 校は配置する。
- 専門学科や専門性の高い普通科のコースなど、多様な学びの選択肢をできるだけ維持する。
- 学校行事や部活動など、子どもたちが協働的に活動できる環境を提供できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。
- 工業等の学びについては、今ある学びを充実させる。
- 多様な子どもたちが一人ひとりの状況に応じて安心して学べる教育環境をどの学校においても充実させる。
- こうした教育環境を実現するため、令和 10 年度に石薬師高校を募集停止とし、当地域の全日制課程 6 校 28 学級を 5 校 25 学級へと再編し、各県立高校の特色化・魅力化を図る。

4 今後の協議について（※ 下線部は前回から加筆修正した部分）

- 令和 10 年度以降も中学校卒業生数の急速な減少が進む中、その過程における学級減への対応については、当地域の県立高校の将来像を検討しつつ、15 年先における状況を想定しながら、引き続き協議を進める必要がある。
- 特に令和 13～15 年度に大きな生徒減が見込まれる。この期間に想定される 5～7 学級程度の学級減への対応については、遅くともその 3 年前である令和 10 年度までに当協議会としての考え方をとりまとめる必要がある。
- これまでの協議をふまえ、以下の点に留意しながら協議を進める必要がある。
 - ・ 隣接地域の活性化協議会における検討状況について
 - ・ 大学進学ニーズや専門性の高い学びを含む多様な学びの選択肢の提供について
 - ・ 地域からのニーズが高い工業等に関する専門性の高い学びの提供方策について
 - ・ 定時制や通信制課程も含めた多様な子どもたちが学べる環境の保障について
 - ・ 老朽化にともなう校舎の新築や建替えについて

鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（令和8年度）

再掲資料 1-①

	学校名	大学科※	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
全 日 制 課 程	県 立	神戸	普通科	【普通科】 ※2年生から文系・理系の類型に分かれる							
		飯野	280	【応用デザイン科】 ビジュアルデザインコース 服飾デザインコース 美術コース							
		飯野	160	【英語コミュニケーション科】 A（英語基礎力強化） B（ハイレベルな英語活動）							
		白子	240	【普通科】 進学コース 教養コース							
		白子	240	【生活創造科】 食彩コース 服飾コース							
		石薬師	80	【普通科】 スタンダード類型 アカデミック類型							
		石薬師	80	【普通科】 アドバンスコース・食物調理コース・情報コース 自動車工業コース・ビジネスコース・介護福祉コース							
私 立	私立	稲生	160	【普通科】 アドバンス系列 情報ビジネス系列							
		稲生	160	【システムメディア科】 ITシステム系列 デザイン系列 情報ビジネス系列							
		亀山	200	【普通科】 アドバンス系列 情報ビジネス系列							
私 立	私立	鈴鹿	470	普通科（特進コース・探究コース・総合コース）※募集定員には中等教育学校後期課程（医進・選抜コース/特進コース）も含む							
		鈴鹿	470								

全28学級
普通科※ 24
専門学科 4
(家庭2)
(情報2)
総合学科 0

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 定時制課程 県立 飯野 80
 - 通信制課程 私立 徳風 240
 - 高等専門学校 国立 鈴鹿工業高専 200
- 普通科
普通科（総合コース、ドッグケアコース、パソコンコース、日本語コース、土日コース、平日サポートコース） ※技能連携あり
機械工学科（40）、電気電子工学科（40）、電子情報工学科（40）、生物応用化学科（40）、材料工学科（40）

【参考】四日市地域の高等学校の学科・コースについて（令和8年度）

再掲資料1-②

		学校名	大学科※	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
全 日 制 課 程	県 立	四日市	普通科	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学 コース	国際科学 コース
		四日市南	普通科	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	数理科学 コース	数理科学 コース
		四日市西	普通科	200	普通科	普通科	普通科	比較文化 ・歴史コース	数理情報 コース			
		朝明	普通科 専門学科	120	普通科	ふくし科	普通科	普通科				
		四日市四郷	普通科	160	普通科	普通科	普通科	スポーツ科学 コース				
		四日市工業	専門学科	280	電子機械科	電気科	電子工学科	電子工学科	建築科	物質工学科	自動車科	
		四日市中央工業	専門学科	200	機械科	電気科	化学工学科	都市工学科	設備システム科			
		四日市商業	専門学科	240	商業科	商業科	商業科	商業科	商業科	情報マネジメント科		
		四日市農芸	専門学科	200	農業科学科	食品科学科	環境造園科	生活文化科	生活文化科			
		菰野	普通科	160	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
		川越	普通科	280	探究科	探究科	探究科	探究科	探究科	探究科	国際探究科	国際探究科
私 立	暁	普通科	430	普通科（Ⅰ類進学コース、Ⅱ類進学コース、Ⅱ類英進コース、6年制）								
	四日市メリアル学院	普通科	140									
	海星	普通科	290	普通科（国際数理コース、進学特別コース、進学コース、6年制）、ダブルディプロマ科								

全62学級
普通科※38
専門学科24
（工業12）
（商業6）
（農業3）
（家庭2）
（福祉1）
総合学科0

全62学級
普通科※ 38
専門学科 24
(工業 12)
(商業 6)
(農業 3)
(家庭 2)
(福祉 1)
総合学科 0

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

〇定時制課程	県立	四日市工業	80	機械交通工学科（40）、住システム工学科（40）
〇通信制課程	県立	北星	130	普通科（昼間部）（40）、情報ビジネス科（昼間部）（40）、普通科（夜間部）（40）、秋期入学（3学科共通）（10）
	県立	北星	300	普通科（240）、秋期入学（普通科）（60）
	私立	四日市リノール学院	60	普通科
	私立	大橋学園	255	普通科（全日コース、医療コース、土曜コース） ※技能連携あり

【参考】津地域の高等学校の学科・コースについて（令和8年度）

再掲資料 1-③

	学校名	大学科※	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8	
全 日 制 課 程	県 立	津	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	
		津西	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学科	国際科学科	
		津商業	240	専門学科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	情報システム科	全46学級 普通科※ 27 専門学科 19 (工業6) (商業7) (農業4) (家庭2) 総合学科 0		
		津東	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
		津工業	240	機械科	機械科	電気科	電子科	建設工学科				
		久居	160	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科				
		久居農林	240	生物生産科	生物資源科	環境情報科	環境土木科	生活デザイン科	生活デザイン科			
白山	80	普通科 専門学科	普通科 情報 コミュニケーション科									
私 立	高田	560	普通科	普通科（Ⅱ類特別選抜クラス、Ⅱ類進学クラス、Ⅰ類進学クラス、6年制）								
	セントジョージ女子学園	125	普通科	普通科（スーパーアドバンスコース、アドバンスコース）								

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

○全日制課程 私立 青山 170 普通科（特進Sコース、特進コース、進学コース、アスリートコース） ※県外扱い
 ○定時制課程 県立 みえ夢学園 120 総合学科（午前の部）（40）、総合学科（午後の部）（40）、総合学科（夜間部）（40）
 ○通信制課程 私立 一志学園 40 普通科（全日型コース、土曜コース、フレックスコース）

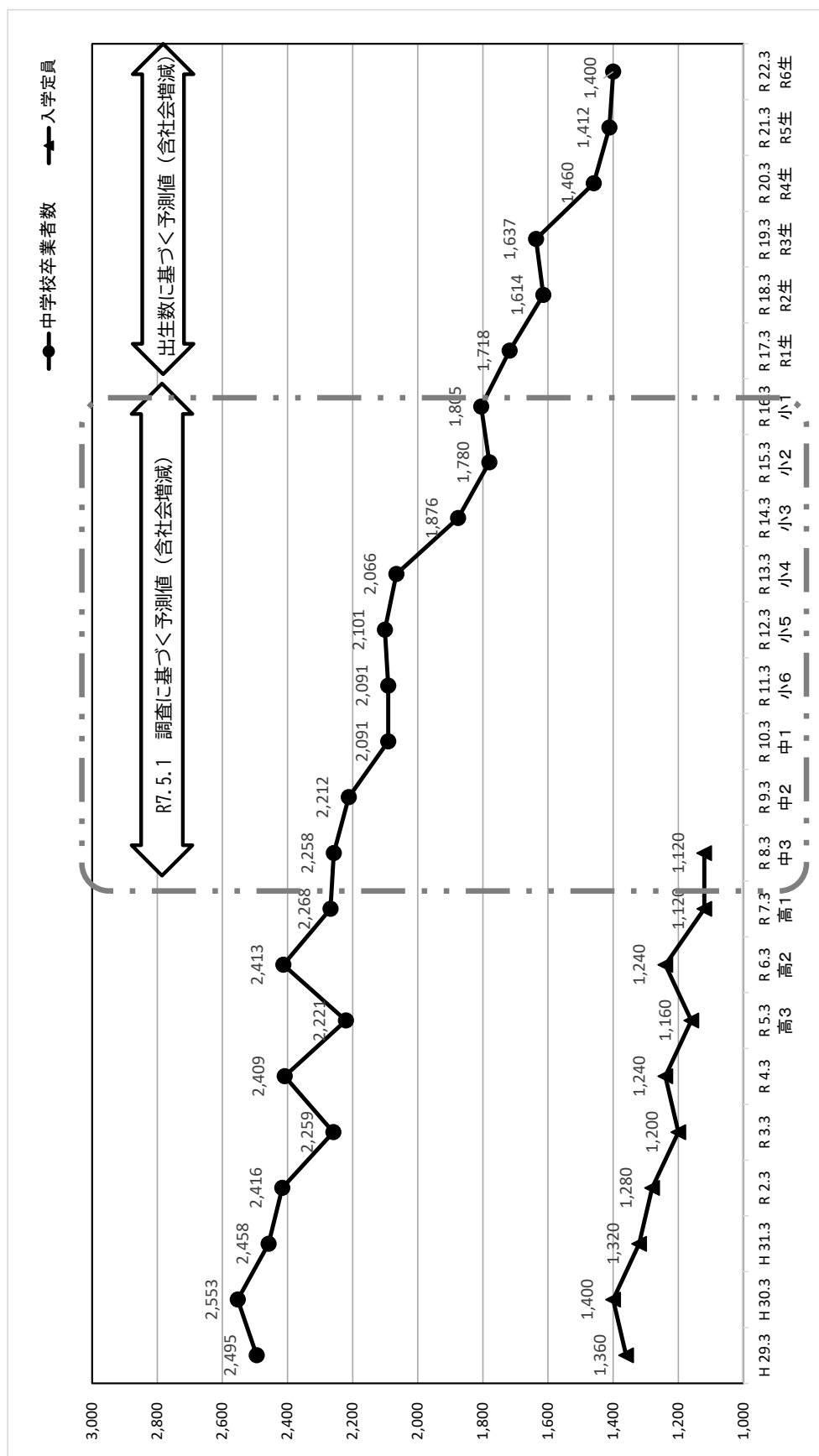
鈴鹿亀山地域中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和7年5月1日 教育政策課調べ

	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
鈴鹿市	卒業生数	1,988	1,798	1,973	1,808	1,775	1,777	1,639	1,667	1,636	1,471	1,400	1,395
	前年度対比		-190	175	-165	-33	2	-138	28	-15	-165	-71	-5
	R7.3対比					-33	-31	-169	-141	-172	-337	-408	-413
亀山市	卒業生数	421	423	440	460	483	435	452	424	430	405	380	410
	前年度対比		2	17	20	23	-48	17	-28	-20	-25	-25	30
	R7.3対比					23	-25	-8	-36	-30	-55	-80	-50
小計	卒業生数	2,409	2,221	2,413	2,268	2,258	2,212	2,091	2,091	2,066	1,876	1,780	1,805
	前年度対比		-188	192	-145	-10	-46	-121	0	-35	-190	-96	25
	R7.3対比					-10	-56	-177	-177	-202	-392	-488	-463
県内合計	卒業生数	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比		-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-14	-631	-646	-345
	R7.3対比					-201	-457	-911	-1,373	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

再掲資料3

鈴鹿亀山地域中学校卒業者と県立高等学校（全日制）入学定員の推移と予測



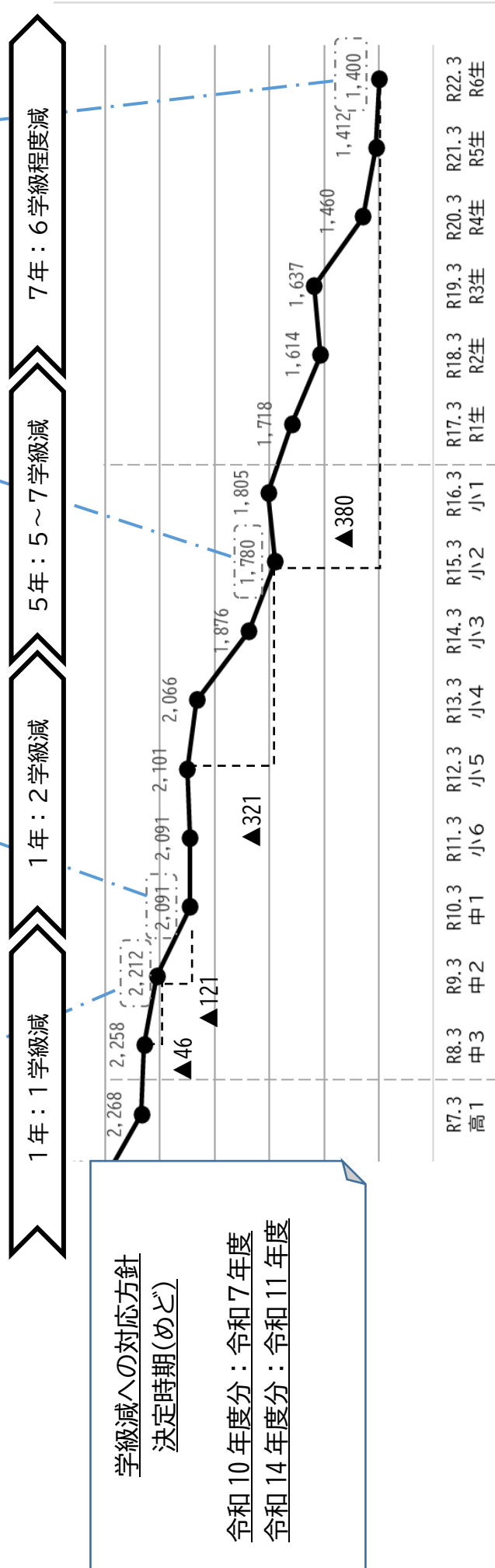
【鈴鹿亀山地域の出生数】

	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
鈴鹿市	1,507	1,508	1,376	1,400	1,306	1,211	1,199
亀山市	411	343	359	360	269	307	306
合計	1,918	1,851	1,735	1,760	1,575	1,518	1,505

令和 22 年度までの鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

令和 8 年度(現中 3) 地域の中学校卒業予定者数 2,258 人 募集定員 1,120 人	令和 9 年度(現中 2) 地域の中学校卒業予定者数 2,212 人 (R8 年度比 ▲46)	令和 10 年度(現中 1) 地域の中学校卒業予定者数 2,091 人 (R8 年度比 ▲167)	令和 15 年度(現小 2) 地域の中学校卒業予定者数 1,780 人 (R8 年度比 ▲478)	令和 22 年度 (R6 年度生まれ) 地域の中学校卒業予定者数 1,400 人 (R8 年度比 ▲858)
---	---	---	---	--

28 学級		27 学級程度		25 学級程度		18～20 学級程度		12～14 学級程度	
神戸高校	(普 7)	鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)		鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)		鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)		鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)	
飯野高校	(普 4)								
白子高校	(普 5・専 1)								
石薬師高校	(普 2)								
稲生高校	(普 4)								
亀山高校	(普 2・専 3)								



再掲資料 5

鈴鹿亀山地域の中学校卒業生進路先の推移

鈴鹿亀山地域の状況

	卒業 年度	卒業 者数	鈴鹿亀山地域（全日制）										地域外（全日制）					定時制・通信制			その他
			県立							私立・高専		合計	県立			県内 私立・ 高専	県外	県内		県外	
			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	計	鈴鹿	鈴鹿 高専		四日市 地域	津 地域	その他 地域			定時制	通信制	通信制	
2 市 の 合 計	R7. 3卒	2,268	195	64	142	72	128	160	761	277	60	1,098	375	299	54	119	40	69	78	70	66
		100%	8.6%	2.8%	6.3%	3.2%	5.6%	7.1%	33.6%	12.2%	2.6%	48.4%	16.5%	13.2%	2.4%	5.2%	1.8%	3.0%	3.4%	3.1%	2.9%
	R6. 3卒	2,413	235	66	160	100	130	153	844	339	49	1,232	325	338	46	147	36	64	95	68	62
		100%	9.7%	2.7%	6.6%	4.1%	5.4%	6.3%	35.0%	14.0%	2.0%	51.1%	13.5%	14.0%	1.9%	6.1%	1.5%	2.7%	3.9%	2.8%	2.6%
	R5. 3卒	2,221	202	72	128	83	129	166	780	290	49	1,119	323	315	40	152	29	47	80	56	60
		100%	9.1%	3.2%	5.8%	3.7%	5.8%	7.5%	35.1%	13.1%	2.2%	50.4%	14.5%	14.2%	1.8%	6.8%	1.3%	2.1%	3.6%	2.5%	2.7%
	R4. 3卒	2,409	229	73	141	83	145	167	838	299	54	1,191	355	344	52	167	43	57	73	72	55
		100%	9.5%	3.0%	5.9%	3.4%	6.0%	6.9%	34.8%	12.4%	2.2%	49.4%	14.7%	14.3%	2.2%	6.9%	1.8%	2.4%	3.0%	3.0%	2.3%

市別の状況

	卒業 年度	卒業 者数	鈴鹿亀山地域（全日制）										地域外（全日制）					定時制・通信制			その他
			県立							私立・高専		合計	県立			県内 私立・ 高専	県外	県内		県外	
			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	計	鈴鹿	鈴鹿 高専		四日市 地域	津 地域	その他 地域			定時制	通信制	通信制	
鈴 鹿 市	R7. 3卒	1,808	180	53	141	57	115	67	613	245	54	912	314	209	26	91	29	59	60	54	54
	R6. 3卒	1,973	217	58	160	80	122	69	706	304	41	1,051	265	255	30	115	29	50	73	56	49
	R5. 3卒	1,798	180	62	126	66	113	81	628	259	43	930	271	237	26	121	24	37	64	45	43
	R4. 3卒	1,988	203	61	139	66	134	72	675	275	46	996	318	276	34	126	39	45	56	53	45
亀 山 市	R7. 3卒	460	15	11	1	15	13	93	148	32	6	186	61	90	28	28	11	10	18	16	12
	R6. 3卒	440	18	8	0	20	8	84	138	35	8	181	60	83	16	32	7	14	22	12	13
	R5. 3卒	423	22	10	2	17	16	85	152	31	6	189	52	78	14	31	5	10	16	11	17
	R4. 3卒	421	26	12	2	17	11	95	163	24	8	195	37	68	18	41	4	12	17	19	10

【 R 7. 3 中学校卒業生（現高 1）の鈴鹿亀山地域全日制高校以外への進路先】

*鈴鹿亀山地域外（全日制） 合計 887 人

- ・ 四日市地域県立 (375人) 四日市工(105)、四日市南(80)、四日市商(61)、四日市農(43)、四日市(40)、四日市西(17)、四日市中央工(9)、四日市四郷(7)、孤野(5)、川越(5)、朝明(3)、
- ・ 津地域県立 (299人) 津工(87)、津商(85)、津東(46)、津西(39)、津 (33)、久居農(8)、久居(1)
- ・ その他地域県立 (54人) あけぼの学園(17)、桑名(14)、伊賀白鳳(4)、昂学園(4)、上野(3)、松阪工(3)、桑名北(2)、相可(2)、桑名西(1)、桑名工業(1)、いなべ総合(1)、宇治山田商業(1)、伊勢工業(1)
- ・ 県内私立・高専 (119人) 海星(43)、高田(43)、三重(8)、鳥羽商船(7)、近大高専(5)、暁(4)、四日市メリノール学院(4)、津田学園(3)、皇学館(1)、青山(1)
- ・ 県外 (40人) 県外国立全日制(5)、県外私立全日制(35)

*定時制・通信制・その他 合計 283 人

- ・ 県内定時制 (69人) 飯野(43)、みえ夢(15)、北星(7)、四工(4)
- ・ 県内通信制 (78人) 大橋学園(42)、北星(17)、徳風(16)、松阪(1)、四日市メリノール学院(1)、代々木(1)
- ・ 県外通信制 (70人) 県外通信制(70)
- ・ その他 (66人) 就職・専修学校・その他(34)、特別支援学校(32)

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への入学状況

【令和7年3月卒】

単位：人

			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山
募集定員			280	160	240	80	160	200
県内	地域内	鈴鹿市	180	53	141	57	115	67
		亀山市	15	11	1	15	13	93
	地域外	四日市地域	58	36	36	5	11	5
		津地域	24	41	34	3	13	28
		その他地域	2	16	24	0	7	8
	県外・その他			1	3	4	0	0
合格者計			280	160	240	80	160	201
入学者計			280	160	240	80	159	201
欠員			0	0	0	0	1	0
地域内入学者計			195	64	142	72	128	160
割合			69.6%	40.0%	59.2%	90.0%	80.5%	79.6%
地域外入学者計			85	96	98	8	31	41
割合			30.4%	60.0%	40.8%	10.0%	19.5%	20.4%

【令和6年3月卒】

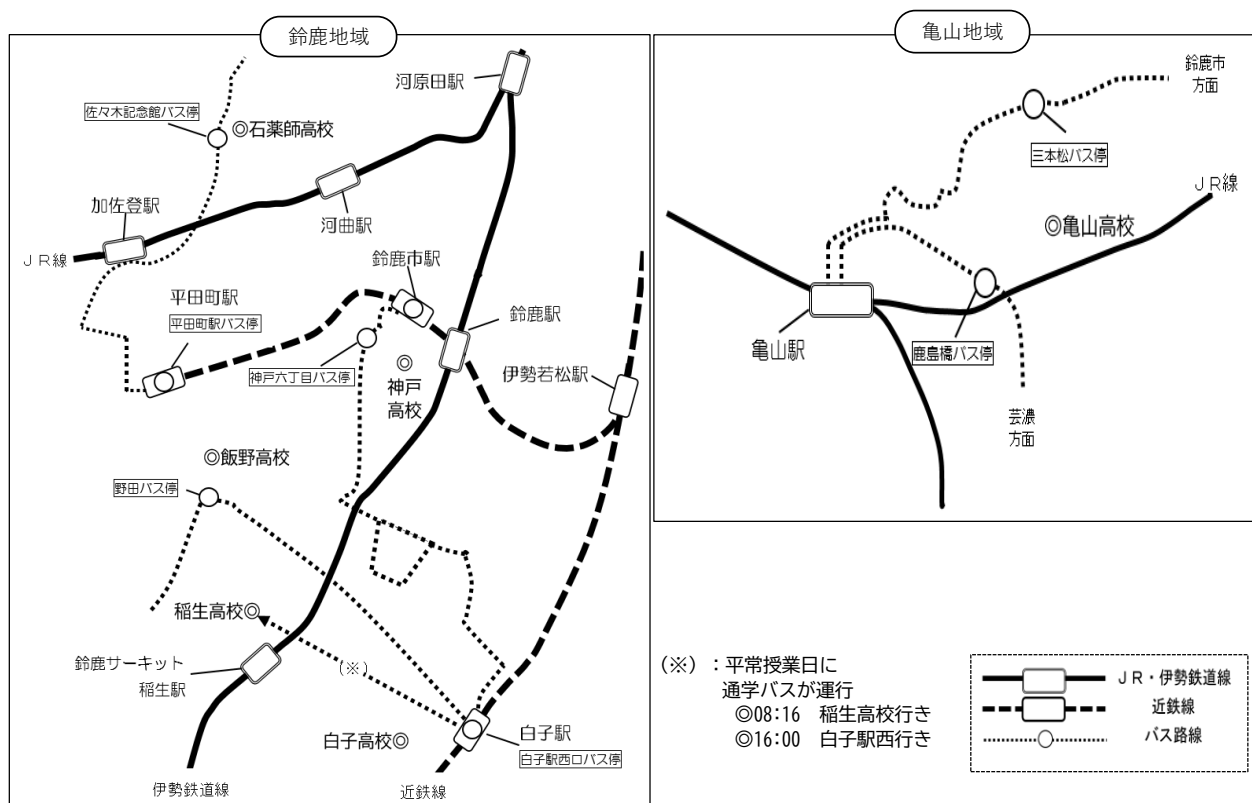
単位：人

			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山
募集定員			320	160	280	120	160	200
県内	地域内	鈴鹿市	217	58	160	80	122	69
		亀山市	18	8	0	20	8	84
	地域外	四日市地域	56	46	50	13	8	2
		津地域	27	31	51	5	13	35
		その他地域	1	10	12	1	9	9
県外・その他			0	7	7	1	0	1
入学者計			319	160	280	120	160	200
欠員			1	0	0	0	0	0
地域内入学者計			235	66	160	100	130	153
割合			73.7%	41.3%	57.1%	83.3%	81.3%	76.5%
地域外入学者計			84	94	120	20	30	47
割合			26.3%	58.8%	42.9%	16.7%	18.8%	23.5%

再掲資料 7

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等

（１）通学における主な路線図



（２）通学方法別生徒数と割合

R 7. 5. 1 学校基本調査より

学校名		神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計
通学方法	徒歩のみ	13 1.5%	39 8.5%	18 2.5%	10 3.5%	8 1.7%	24 4.1%	112 3.3%
	自転車のみ	445 51.0%	109 23.9%	270 36.9%	159 56.0%	305 66.2%	294 50.3%	1,582 46.7%
単車のみ	単車のみ	3 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.1%
	J Rのみ	14 1.6%	13 2.8%	3 0.4%	22 7.7%	27 5.9%	67 11.5%	146 4.3%
私鉄のみ	私鉄のみ	164 18.8%	117 25.6%	227 31.1%	0 0.0%	5 1.1%	1 0.2%	514 15.2%
	バスのみ	21 2.4%	22 4.8%	6 0.8%	13 4.6%	0 0.0%	27 4.6%	89 2.6%
J Rと	私鉄	7 0.8%	8 1.8%	9 1.2%	1 0.4%	3 0.7%	8 1.4%	36 1.1%
	バス	2 0.2%	21 4.6%	0 0.0%	1 0.4%	2 0.4%	11 1.9%	37 1.1%
	自転車	50 5.7%	7 1.5%	2 0.3%	39 13.7%	36 7.8%	102 17.5%	236 7.0%
私鉄と	バス	20 2.3%	34 7.4%	20 2.7%	7 2.5%	2 0.4%	0 0.0%	83 2.4%
	単車	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%
	自転車	119 13.6%	65 14.2%	157 21.5%	8 2.8%	48 10.4%	1 0.2%	398 11.7%
バスと	自転車	2 0.2%	7 1.5%	4 0.5%	11 3.9%	5 1.1%	23 3.9%	52 1.5%
	その他 （車送迎、3つ以上の交通機関等）	11 1.3%	15 3.3%	15 2.1%	13 4.6%	20 4.3%	26 4.5%	100 3.0%
合計		872	457	731	284	461	584	3,389

(3) 通学費用別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計	積み上げ
不要	461 52.9%	149 32.6%	295 40.4%	173 60.9%	321 69.6%	347 59.4%	1,746 51.5%	1,746 51.5%
3,000円以内	27 3.1%	17 3.7%	38 5.2%	22 7.7%	17 3.7%	37 6.3%	158 4.7%	1,904 56.2%
5,000円以内	220 25.2%	54 11.8%	208 28.5%	33 11.6%	18 3.9%	76 13.0%	609 18.0%	2,513 74.2%
7,000円以内	89 10.2%	109 23.9%	105 14.4%	26 9.2%	35 7.6%	38 6.5%	402 11.9%	2,915 86.0%
9,000円以内	27 3.1%	23 5.0%	9 1.2%	14 4.9%	16 3.5%	21 3.6%	110 3.2%	3,025 89.3%
11,000円以内	23 2.6%	35 7.7%	24 3.3%	4 1.4%	16 3.5%	22 3.8%	124 3.7%	3,149 92.9%
13,000円以内	7 0.8%	16 3.5%	15 2.1%	5 1.8%	9 2.0%	15 2.6%	67 2.0%	3,216 94.9%
15,000円以内	11 1.3%	19 4.2%	21 2.9%	0 0.0%	20 4.3%	12 2.1%	83 2.4%	3,299 97.3%
15,001円以上	7 0.8%	35 7.7%	16 2.2%	7 2.5%	9 2.0%	16 2.7%	90 2.7%	3,389 100.0%
合計	872	457	731	284	461	584	3,389	3,389

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計	積み上げ
15分以内	149 17.1%	40 8.8%	155 21.2%	24 8.5%	96 20.8%	93 15.9%	557 16.4%	557 16.4%
30分以内	309 35.4%	82 17.9%	255 34.9%	96 33.8%	170 36.9%	184 31.5%	1,096 32.3%	1,653 48.8%
45分以内	216 24.8%	56 12.3%	141 19.3%	73 25.7%	91 19.7%	145 24.8%	722 21.3%	2,375 70.1%
60分以内	147 16.9%	88 19.3%	115 15.7%	54 19.0%	67 14.5%	117 20.0%	588 17.4%	2,963 87.4%
90分以内	47 5.4%	135 29.5%	51 7.0%	27 9.5%	26 5.6%	38 6.5%	324 9.6%	3,287 97.0%
120分以内	4 0.5%	42 9.2%	10 1.4%	8 2.8%	6 1.3%	5 0.9%	75 2.2%	3,362 99.2%
121分以上	0 0.0%	14 3.1%	4 0.5%	2 0.7%	5 1.1%	2 0.3%	27 0.8%	3,389 100.0%
合計	872	457	731	284	461	584	3,389	3,389

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R7. 5. 1 学校基本調査より

種別 \ 学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計
下宿	0	3	9	0	0	0	12
寄宿舎	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	3	9	0	0	0	12

再掲資料 8

鈴鹿亀山地域からの進学者数が多い他地域の県立高等学校（全日制）における
通学時間別生徒数と割合

四日市地域

R 7. 5. 1 学校基本調査より

学校名 時間	四日市工業	四日市南	四日市商業	四日市農芸	四日市	合計	積み上げ
15分以内	75	134	64	49	104	426	426
	9.1%	14.2%	9.0%	8.3%	10.9%	10.6%	10.6%
30分以内	254	246	161	166	274	1,101	1,527
	30.8%	26.1%	22.5%	28.0%	28.6%	27.3%	37.9%
45分以内	226	184	122	171	312	1,015	2,542
	27.4%	19.5%	17.1%	28.9%	32.6%	25.2%	63.0%
60分以内	183	294	173	107	219	976	3,518
	22.2%	31.1%	24.2%	18.1%	22.9%	24.2%	87.2%
90分以内	78	83	159	84	44	448	3,966
	9.5%	8.8%	22.2%	14.2%	4.6%	11.1%	98.3%
120分以内	9	2	35	14	5	65	4,031
	1.1%	0.2%	4.9%	2.4%	0.5%	1.6%	99.9%
121分以上	0	1	1	1	0	3	4,034
	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	100.0%
合計	825	944	715	592	958	4,034	4,034

津地域

R 7. 5. 1 学校基本調査より

学校名 時間	津工業	津商業	津東	津西	津	合計	積み上げ
15分以内	74	38	63	110	121	406	406
	10.5%	5.3%	8.0%	11.6%	12.6%	9.9%	9.9%
30分以内	158	93	136	180	280	847	1,253
	22.4%	13.0%	17.2%	19.0%	29.2%	20.6%	30.5%
45分以内	163	183	157	190	194	887	2,140
	23.2%	25.6%	19.9%	20.0%	20.3%	21.6%	52.0%
60分以内	215	296	281	263	193	1,248	3,388
	30.5%	41.5%	35.6%	27.7%	20.1%	30.3%	82.4%
90分以内	85	94	137	167	145	628	4,016
	12.1%	13.2%	17.3%	17.6%	15.1%	15.3%	97.6%
120分以内	8	7	13	36	24	88	4,104
	1.1%	1.0%	1.6%	3.8%	2.5%	2.1%	99.8%
121分以上	1	3	3	2	1	10	4,114
	0.1%	0.4%	0.4%	0.2%	0.1%	0.2%	100.0%
合計	704	714	790	948	958	4,114	4,114

鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問6）

「学校の雰囲気・イメージ」(53.1%)、「通学のしやすさ・距離」(50.5%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(47.6%)、「学びたい学科やコースがある」(39.1%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる」(38.8%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育（問8）

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(52.0%)、「基本的な知識が身につく教育」(48.0%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(46.9%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(42.0%)を期待している。

(3) 希望する学級数について（問10）

多い順に「4～6学級」(47.9%)、「2～3学級」(32.3%)、「1学級」(13.4%)、続いて「7学級以上」(6.4%)となっている。

(4) 通学時間について（問11）

多い順に「60分以内まで」(54.0%)、「30分以内まで」(22.5%)、「90分以内まで」(16.8%)、「120分以内まで」(3.5%)、「121分以上」(3.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について（問12）

「まだ決まっていない、わからない」(40.4%)が最も多く、続いて、「県外」(20.0%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(13.5%)、「地元」(12.3%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問6）

「学びたい学科やコースがあること」(69.6%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(69.3%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(58.7%)に続いて、「学校の雰囲気・イメージ」(41.8%)となっている。

(2) 高校に期待する教育（問8）

「自ら学び続ける力が身につく教育」と「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(58.5%)をはじめ、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(50.4%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(49.6%)を期待している。

(3) 学級の規模について（問10）

多い順に「4～6学級」(53.7%)、「2～3学級」(28.2%)、「1学級」(11.3%)、続いて「7学級以上」(6.8%)となっている。

(4) 通学時間について（問11）

多い順に「60分以内まで」(70.7%)、「30分以内まで」(19.2%)、「90分以内まで」(9.0%)、「120分以内まで」(1.1%)、「121分以上」(0.1%)となっている。

(5) 将来生活する場所について（問12）

「本人の希望次第」(72.4%)が最も多く、続いて、「地元」(10.3%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(5.0%)、「特に考えはない」(3.3%)となっている。

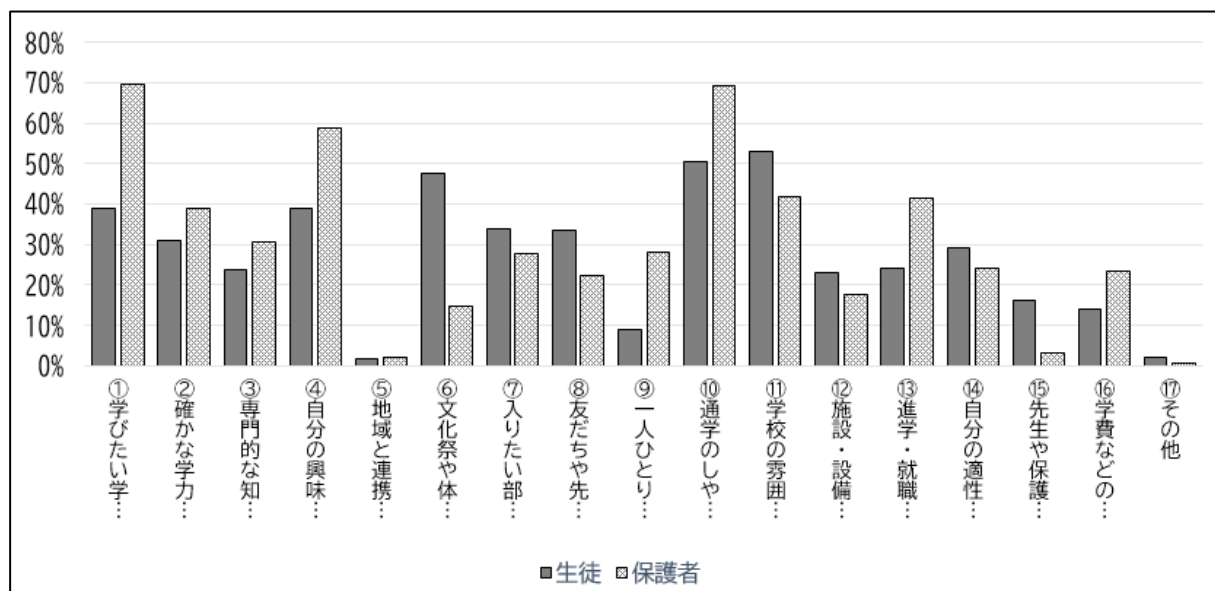
(6) 今後の鈴鹿亀山地域の県立高校のあり方について

今後の鈴鹿亀山地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(71.8%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(22.3%)、「積極的に統合を進めるべき」(5.9%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

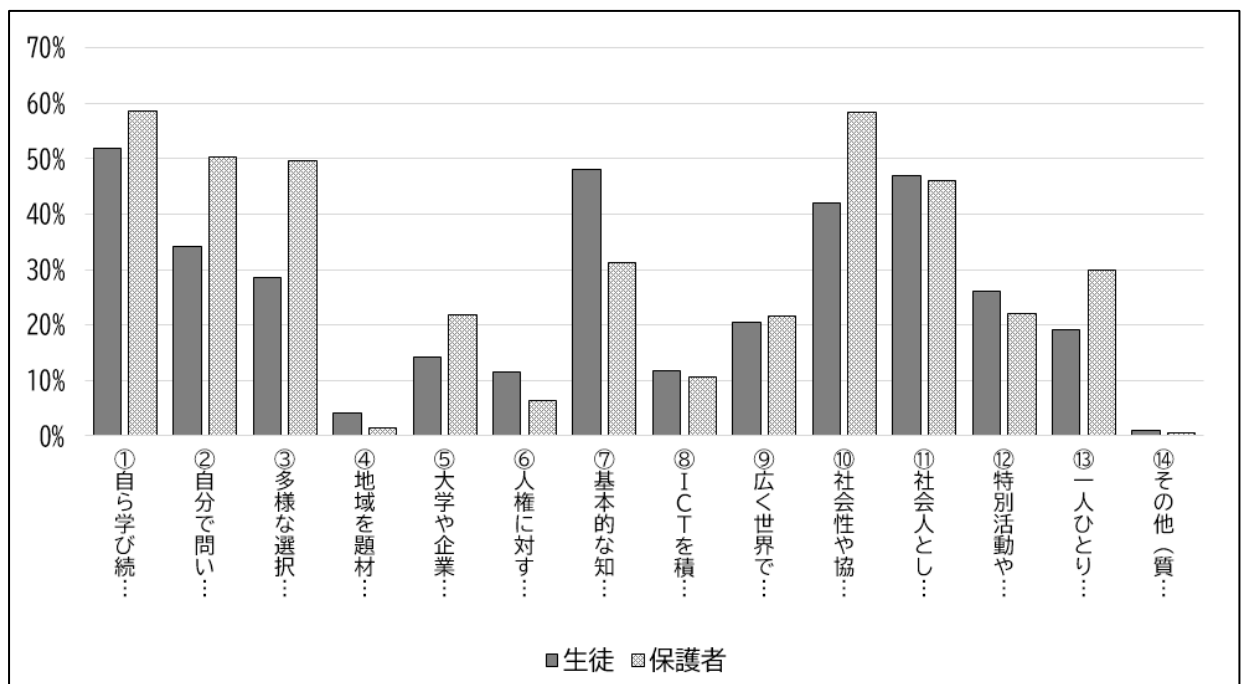
(1) 高校選びに重視すること（回答は6つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目	対象	生徒 (1,730人)	保護者 (1,960人)
① 学びたい学科やコースがある	④	676 39.1%	① 1,366 69.6%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑧	539 31.2%	⑥ 764 38.9%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑪	411 23.8%	⑦ 603 30.7%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑤	671 38.8%	③ 1,151 58.7%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑰	29 1.7%	⑯ 43 2.2%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	824 47.6%	⑭ 288 14.7%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑥	586 33.9%	⑨ 541 27.6%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑦	581 33.6%	⑫ 437 22.3%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	153 8.8%	⑧ 555 28.3%
⑩ 通学のしやすさ・距離	②	874 50.5%	② 1,359 69.3%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	①	919 53.1%	④ 821 41.8%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	400 23.1%	⑬ 349 17.8%
⑬ 進学・就職の実績	⑩	419 24.2%	⑤ 815 41.5%
⑭ 自分の適性や能力	⑨	503 29.1%	⑩ 475 24.2%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	278 16.1%	⑮ 61 3.1%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	244 14.1%	⑪ 457 23.3%
⑰ その他（質問7の自由記述へ）	⑯	35 2.0%	⑰ 11 0.6%



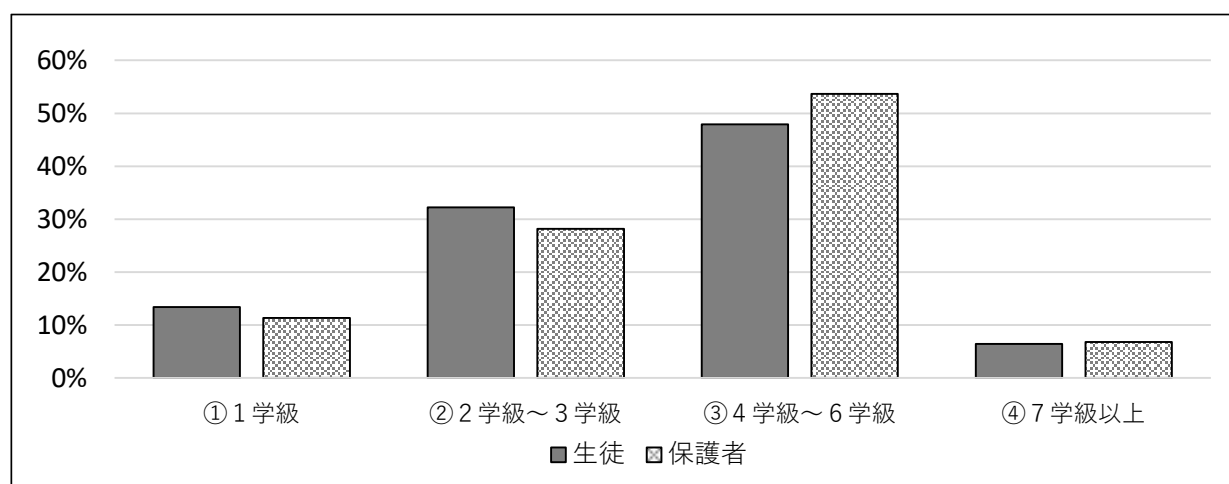
(2) 高校に期待する教育（回答は5つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目	対象		生徒 (1,730人)	保護者 (1,962人)
① 自ら学び続ける力が身につく教育	①	899	52.0%	① 1,148 58.5%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤	590	34.1%	③ 988 50.4%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑥	496	28.7%	④ 974 49.6%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬	72	4.2%	⑬ 29 1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩	247	14.3%	⑨ 428 21.8%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫	199	11.5%	⑫ 126 6.4%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	②	831	48.0%	⑥ 615 31.3%
⑧ ICTを積極的に活用する教育	⑪	202	11.7%	⑪ 210 10.7%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧	354	20.5%	⑩ 424 21.6%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④	727	42.0%	② 1,147 58.5%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③	811	46.9%	⑤ 905 46.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑦	453	26.2%	⑧ 431 22.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨	332	19.2%	⑦ 586 29.9%
⑭ その他（質問9の自由記述へ）	⑭	19	1.1%	⑭ 11 0.6%



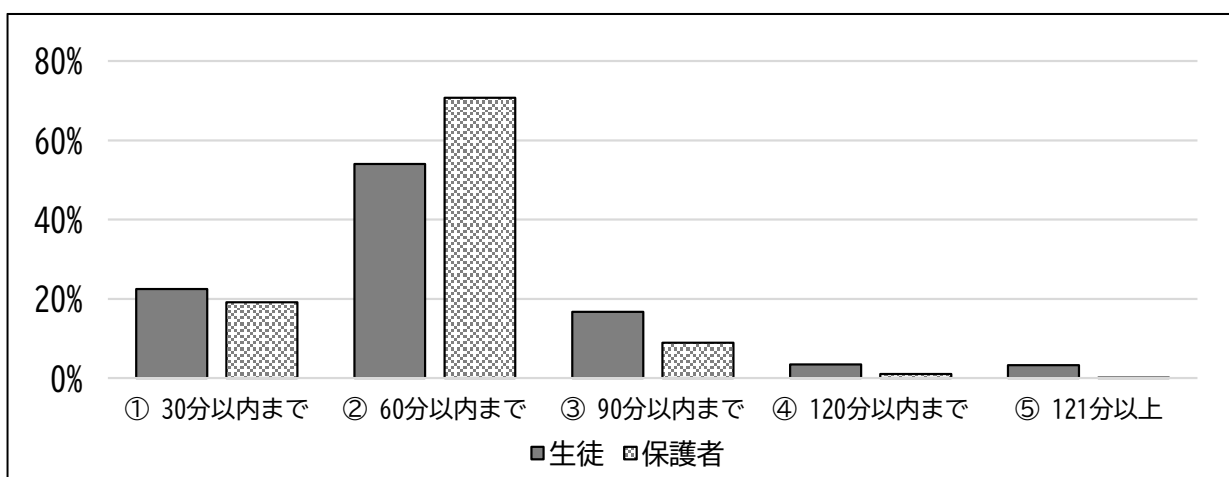
(3) 1学年当たりの学級規模 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,730人)		保護者 (1,962人)	
① 1学級 (40人)	③ 232	13.4%	③ 222	11.3%
② 2学級～3学級 (80～120人)	② 558	32.3%	② 553	28.2%
③ 4学級～6学級 (160～240人)	① 829	47.9%	① 1,053	53.7%
④ 7学級以上 (280人～)	④ 111	6.4%	④ 134	6.8%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,730人)		保護者 (1,962人)	
① 30分以内まで	② 389	22.5%	② 376	19.2%
② 60分以内まで	① 935	54.0%	① 1,387	70.7%
③ 90分以内まで	③ 290	16.8%	③ 176	9.0%
④ 120分以内まで	④ 60	3.5%	④ 21	1.1%
⑤ 121分以上	⑤ 56	3.2%	⑤ 2	0.1%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒4位 676人(39.1%)、保護者1位 1,366人(69.6%)

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒5位 671人(38.8%)、保護者3位 1,151人(58.7%)

⑩通学のしやすさ・距離

生徒2位 874人(50.5%)、保護者2位 1,359人(69.3%)

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒1位 919人(53.1%)、保護者4位 821人(41.8%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒8位 539人(31.2%)、保護者6位 764人(38.9%)

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 824人(47.6%)、保護者14位 288人(14.7%)

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒6位 586人(33.9%)、保護者9位 541人(27.6%)

⑬進学・就職の実績

生徒10位 419人(24.2%)、保護者5位 815人(41.5%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒17位 29人(1.7%)、保護者16位 43人(2.2%)

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒15位 153人(8.8%)、保護者8位 555人(28.3%)

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒13位 278人(16.1%)、保護者15位 61人(3.1%)

(2)「高校に期待する教育(14個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 899人(52.0%)、保護者1位 1,148人(58.5%)

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 590人(34.1%)、保護者3位 988人(50.4%)

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 727人(42.0%)、保護者2位 1,147人(58.5%)

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 811人(46.9%)、保護者5位 905人(46.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒6位 496人(28.7%)、保護者4位 974人(49.6%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 831人(48.0%)、保護者6位 615人(31.3%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 72人(4.2%)、保護者13位 29人(1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒12位 199人(11.5%)、保護者12位 126人(6.4%)

(3) 「1学年あたりの学級規模(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「4学級～6学級」(生徒47.9%、保護者53.7%)と最も多く、次いで「2学級～3学級」(生徒32.3%、保護者28.2%)、「1学級」(生徒13.4%、保護者11.3%)、「7学級以上」(生徒6.4%、保護者6.8%)となっている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60分以内まで」(生徒54.0%、保護者70.7%)、「30分以内まで」(生徒22.5%、保護者19.2%)と続き、さらに「90分以内まで」(生徒16.8%、保護者9.0%)、「120分以内まで」(生徒3.5%、保護者1.1%)となっている。

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（≡学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ワンド・フォーゲル）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No.19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

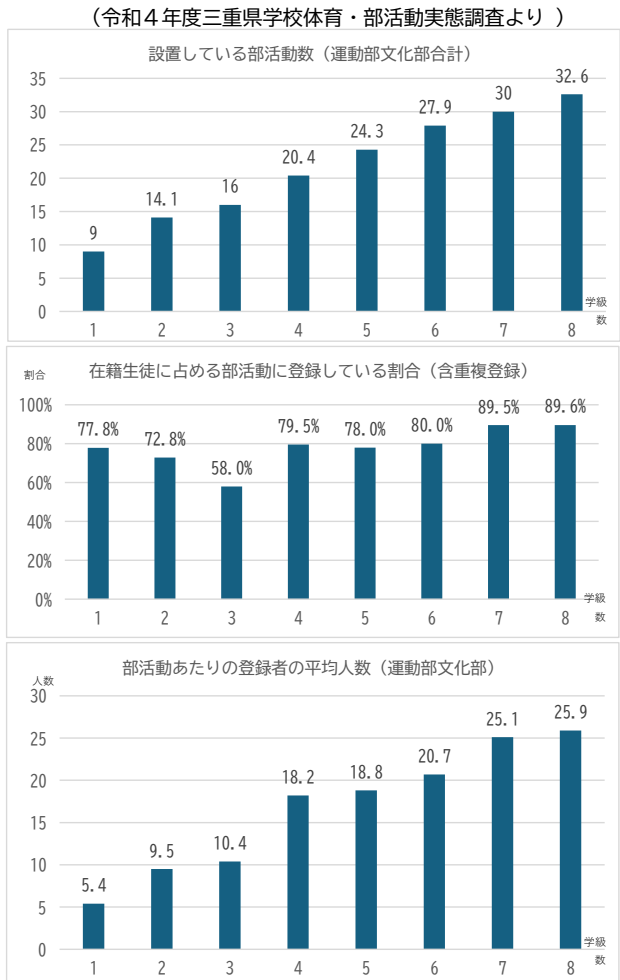
R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
設置部活動の種類（～No.20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ワンド・フォーゲル）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No.19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況



次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

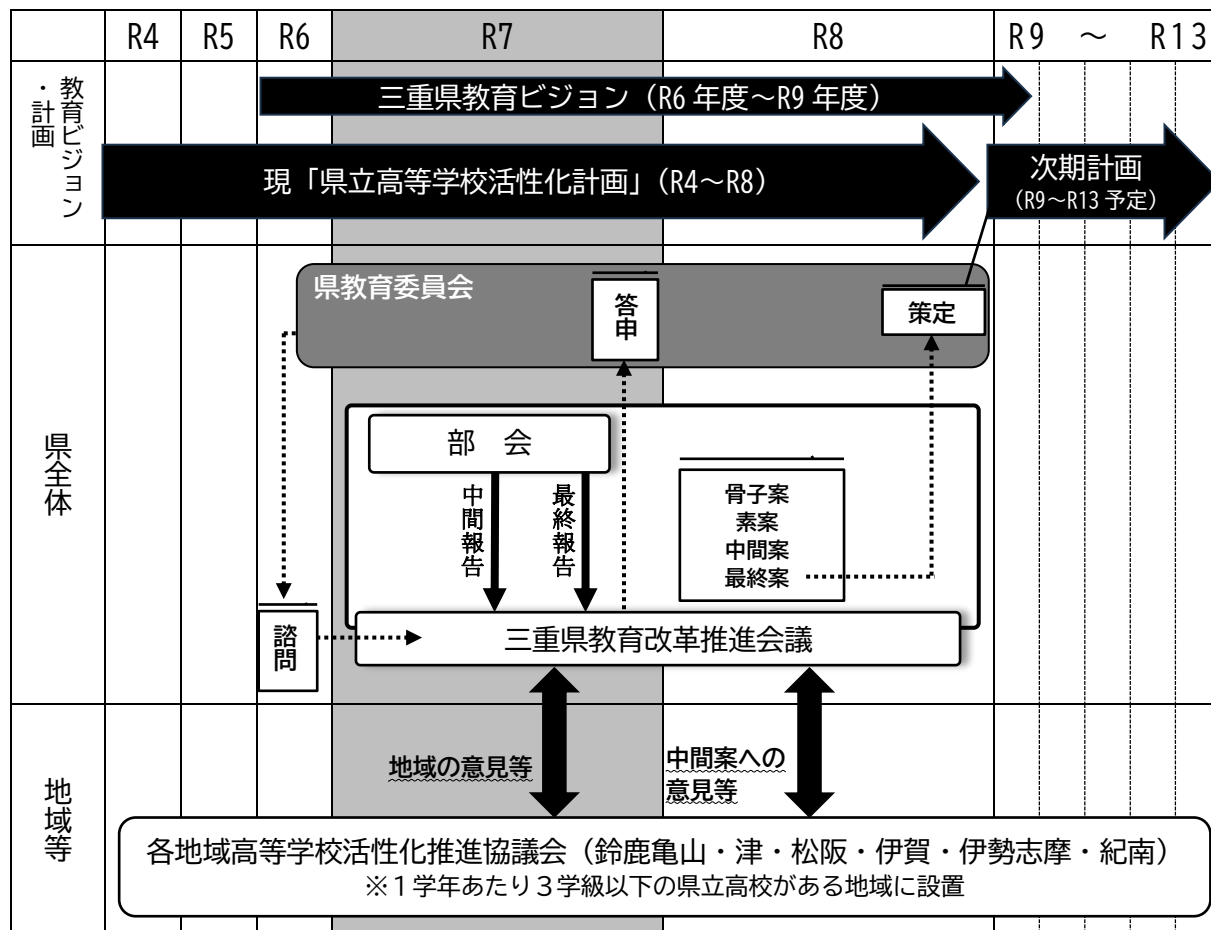
1 三重県教育改革推進会議における審議

現行の県立高等学校活性化計画（以下、「計画」という。）は令和4年から令和8年が計画期間となっていることから、県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議（以下「推進会議」という。）の審議を経て次期計画を令和8年度末に策定します。

令和7年3月に開催された推進会議では、県教育委員会教育長から次期計画の策定に係る県立高校の学び並びに規模及び配置のあり方について諮問され、令和8年3月31日までに報告することとなっています。

また、その審議については、推進会議と併せ、専門的な調査研究を行うための部会（「県立高等学校の在り方調査研究部会」）が設置され、今年度集中的に審議されることとなっています。

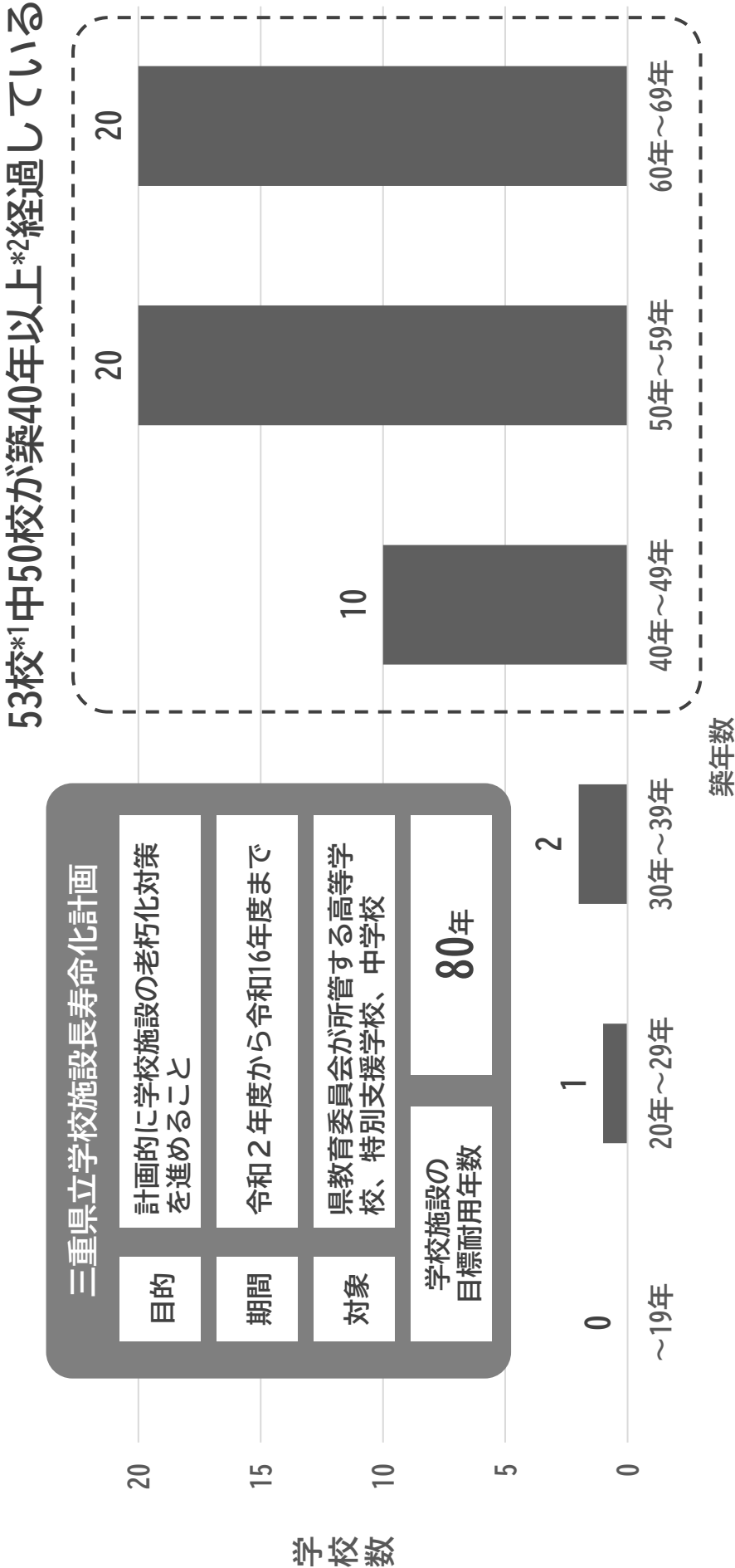
2 次期計画の策定に向けた動き（予定）



※令和7年度の推進会議（全体会）は2回程度、部会は4回程度の開催見込み

学校施設

学校施設の老朽化の状況



【備考】

- * 1 熊野青藍高等学校については、木本高等学校及び紀南高等学校と同一の校舎であるため、学校数に含めていない。
- * 2 各県立高等学校（全日制）の主たる校舎の築年数（令和7年4月1日時点）

三重県教育改革推進会議
令和7年度第2回県立高等学校の在り方調査研究部会（R7.9.4）
「論点に関する補足説明資料」より

令和5～7年度の協議における主な意見

【鈴鹿亀山地域の高等学校の現状について】

- 普通科のコースでは、専門教科の授業や実習が少ないため、専門学科と比較するとどうしても知識や技能に差が生じてしまう。また、当地域の事業所からは、おそらくこれまでに就職実績がある事業所や地元の事業所が優先されるためか、四日市市や津市の工業高校、商業高校に求人を出しても、生徒の応募がなく、人手不足であると聞いている。
- 当地域の県立高校の学びの選択肢がこのままであれば、15年先までにかかなりの学級数を減らさざるを得ない。しかし、四日市地域や津地域の専門高校へ一定数の生徒が流出していることをふまえると、鈴鹿市内の高校に工業、商業、農業などの職業系の専門学科を設置することで、学級数の減少を抑えることができるのではないかと。市内の事業所からも人手不足であるという声が大きくなっており、ぜひ設置を検討してほしい。
- 鈴鹿亀山地域の中学校卒業生の約4割が地域外の全日制高校へ進学しており、特に、当地域に設置されていない工業科や商業科へ一定数の生徒が進学している。そのため、これら職業系専門学科が当地域に設置されれば、子どもたちの地域外への移動が少なくなり、学級減の必要もなくなるのではないかと。
- 普通科のコースの充実では、専門学科の学びと比べ、どうしても実習をはじめとした専門的な授業の時間が少なくなる。就職後、すぐに役立つスキルを身につけてもらうために、より専門性の高い学びが行われる職業系専門学科を設置してほしい。
- 当地域に専門高校をつくったとしても、他地域の実績のある専門高校を上回る魅力がなければ、近いというだけで生徒は選んでくれないだろう。
- 少子化の中では、新たな専門学科の設置は難しいところもあるため、それぞれの県立高校は地域のニーズをふまえて特色化・魅力化に取り組んでいる。例えば、稲生高校の普通科では、6つのコースを設置し専門学科に近い学びを提供している。
- 工業高校を設置するには、施設整備のために多額の予算が必要となる。少子化が進む中にあるのは、既存の学科・コースの学びに予算を投入し、時代のニーズに沿った専門性の高い学びを充実させるほうがよいのではないかと。
- 工業をはじめとする専門性の高い学びの充実は必要であり、普通科におけるコースの設置や他校との連携、資格取得の取組等、さまざまな方策を検討してほしい。
- 大学進学を考えている中学生の多くが、四日市地域や津地域の普通科高校へ進学している。当地域の子どもたちを地域に残していくための取組をするべきではないかと。例えば、当地域に公立の中高一貫教育校を設置するのも、ニーズがあれば1つの選択肢になりうるのではないかと。
- 令和2年度に就学支援金制度が拡充されたことにより、県立高校と私立高校の経済的負担の差が小さくなったため、生徒は学校の特色をより重視して高校を選ぶようになっている。県立高校の学びと配置のあり方については、私学の状況もふまえて総合的に考える必要がある。

【部活動について】

- アンケートでは高校の部活動に期待する声も大きいですが、中学校において部活動の地域移行についての議論が進められる中、高校の部活動を今後どうしていくのかについても重要な課題となるのではないかと。
- 部活動が充実していることは、高校を選択する際の大きな魅力の1つとなっている。全ての高校が小規模化されて、十分な部活動ができなくなってしまうよう、部活動の活性化という視点も大切にしてほしい。

【当地域の県立高校に求められる学びについて】

- 地元経済界としては、社会人としてのマナーや基本的生活習慣を身につけてもらった上で、DXに関わる教育や金融教育に力を入れてもらいたい。
- 保護者としては、大学進学や就職など、子どもたちの進路実現につながる学びを重視してもらいたい。
- アンケート結果を見ると、子どもたちは学校行事や部活動など、授業以外の活動にも期待していることがうかがえる。こうした子どもたちの思いをふまえ、地域のイベントに参加したり、協力したりするなど、地域社会とのつながりの中での学びがより充実することを期待したい。
- 中学校段階で、将来の進路を明確に決めるのは難しい生徒も多いため、稲生高校の普通科のように、多様なコースの中から、入学後に自分の興味関心に応じてコースを選択できるのは大きな魅力となっている。また、工業や商業などの専門学科と同じような資格取得が可能となれば、より魅力が高まるのではないかと。専攻科の設置など、当地域の魅力や特徴を生かした新しい取組を検討してみてはどうか。
- アンケート結果を見ると、少子化の中にあっても子どもや保護者の希望は今も昔も大きくは変わらないように感じる。学級減に伴う教員数の減少を補うため、オンラインで学校間をつないで授業を行ったり、大学との連携を進めて、大学生との交流を増やしたりしてはどうか。

【地域との関わりについて】

- 地元の高校で学んだ生徒が、地元就職することも大切であるが、他地域の高校で学んだ生徒や県外の大学に進学した生徒が、地元に戻って働きたいと思えたり、それを実現できたりする仕組みづくりも必要である。
- 人の役に立ちたい、地域の力になりたいと思っている地元志向が強い中学生は多い。四日市地域や津地域へ進学する生徒も一定数いるものの、当地域の各県立高校のニーズは高いと感じている。
- 地元で働きたいと考えている子どもたちに対し、将来、地域での活躍につながる特色のある学科を設置したり、地域の大学と連携して、高校から大学まで一貫した教育を進めていったりするといった方向性も考えられるのではないかな。
- 小学生にとって高校生は憧れの存在であるため、高校生が小学生に専門性を生かした出前授業をしてくれたり、地域の行事で輝いている高校生の姿を小学生が見たりする機会を増やせると、地域の高校に進学したいと思う子どもたちを増やすことができるのではないかな。

【多様な子どもたちの状況と学習環境への対応について】

- 全国的に不登校の児童生徒が増加していることから、中学校までにしっかりと学ぶことができなかつた子どもたちの学び直しの場も高校には必要ではないかな。
- 当地域の小中学校には外国につながる子どもたちが多く在籍していることから、高校においても、外国につながる生徒を受け入れ、学びを支えていくという視点が大切である。
- 小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者からは、特別支援学校の高等部ではなく、県立高校への進学を考えた場合、選択肢が限られるという声を聞く。特別な支援を必要とする子どもたちや外国につながる子どもたち、不登校の子どもたちが増えている中で、こうした子どもたちが高校で安心して学べる教育環境を保障してほしい。
- 不登校など学校に行きづらい子どもたちが増えている中で、多様な学びを保障するためにも、定時制・通信制のあり方や、学びの多様化学校のような学校の設置を考えてもよいのではないかな。
- 小中学校を含め外国につながる子どもたちに関わる教育は、当地域の強みであり、こうした子どもたちが他地域からも集まるような高校をつくるのも一つのアイデアである。

【交通に係る課題について】

- 亀山市から鈴鹿市内の高校へは交通の便がよくないため、亀山高校かJR沿線の四日市市や津市の高校を選択する生徒が多い。鈴鹿市内の高校へ通いたいと思う子どもたちのために、路線バスの経路の見直しや通学バスの運行などの支援をお願いしたい。
- 鈴鹿市と亀山市がそれぞれ独自で運行するコミュニティバスについて、市を越えて連携させ、鈴鹿・亀山間の交通の利便性の向上が図られるよう、当協議会から行政へ提言することを検討してはどうか。
- 鈴鹿市と亀山市のコミュニティバスの連携が進めば、通学だけでなく地域経済の活性化にもつながることから、県と市の交通行政が協力して進めていく必要がある。
- 前回の協議でも意見があったようだが、亀山市と鈴鹿市の間は通学に係り交通の利便性がよくないと感じている。両市間のコミュニティバスの導入が実現すれば、交通の範囲が広がり、高校選択の幅がもっと広がるのではないかな。
- 毎年4割近くの生徒が地域外の高校へ進学しているが、通学時間の状況はどうか。多くの生徒が90分以上要しているのであれば、当地域の子どもたちにとって不利な状況であり、今後の高校の配置計画にも大きく影響するのではないかな。

【学校規模について】

- 小規模な高校では、生徒一人ひとりに丁寧な指導が行き届くというメリットがあると聞いている。一方で、いじめ等があった場合に、クラス替えが難しいなど、生徒の安心できる場の確保が難しく、その結果、退学を選択せざるをえなくなるケースがあるとも聞いている。統合や学級減を検討する際には、いじめ防止の観点からも慎重に考えてほしい。
- アンケート結果から、小規模校を望む声は一定数あるため、仮に再編することになったとしても、小規模校で行ってきた学びは、地域の高校で引き継いでいく必要がある。
- 学校規模が大きくなると教員数も増えるため、多様な選択科目を開講できたり、学校行事や部活動が活発になったりする。子どもたちがさまざまな選択ができるという点においては、統合によるスケールメリットは大きいと感じている。
- 国公立大学や難関私立大学への進学ニーズに応える一定規模の普通科高校が当地域に必要であり、各教科の教員数などをふまえると、理想は1学年8学級、最低でも6学級はあったほうがよい。
- 大学進学へのニーズに対応する普通科高校は8学級、最低でも6学級程度の規模は必要であり、それを維持するために統合が必要というのであれば、ぜひ校舎を新築し、魅力のある学校をつくってほしい。
- 参考資料をみると、部活動の充実という視点では、1学年4学級以上の規模が必要である。

【今後の県立高校のあり方について】

- 令和 10 年度以降も中学校卒業者数はさらに減少していくことを見据え、県立高校の学びと配置のあり方を考えていく必要がある。また、令和 7 年度中に、協議会としての一定の結論を出すためにもスケジュール感を持って協議を進める必要がある。
- 15 年先に 1 学年の総学級数が 13～15 学級となることが想定される中、普通科の一定規模の維持や多様な学びの選択肢の維持、部活動の活性化などを考えると、当地域の高校は 2～3 校程度に集約されるのではないかと。今後、学校数と学級数のバランスに留意して協議を進めていく必要がある。
- 当地域の高校の統廃合や学級減を考える際には、他地域の職業系専門学科への進学をどう捉えるのかを議論する必要がある。
- 中学生のニーズから、当地域に大学進学に対応する一定規模の普通科高校は必要であるが、過去の生徒急増期に普通科の定員を大きく増やしたことを考え、普通科を中心に定員を減らし、多様な子どもたちの学びを保障しつつ、学びを集約していく方向になるのではないかと。
- 少子化の中、学校を新設することは難しいため、現在当地域にある学びの内容や施設設備を充実させることが現実的な対応になると考えている。遠隔授業や既存の施設の活用など、授業のあり方を柔軟に考えながら、再編の方向性を考えてはどうか。
- どの地域も中学校卒業者数が減少している中、新たな学科を設置して地域間で生徒の取り合いをするよりも、今ある学びを大切にして、学科や学校生活の魅力を高めていく方が、成果は出やすいのではないかと。
- 中学校段階で自身の進路が明確となっている子どもは少なく、高校に入ってから自分のやりたいことを見つけないという生徒が多い。そのため、再編したとしてもオーソドックスな普通科は残してほしい。
- 現在、県内全域から生徒が入学している特色のある学科は、今後も当地域に残したほうがよい。
- これまで小規模校が果たしてきた役割は大きく、学級数が減ったとしてもその機能は残していく必要がある。
- 現在の高校が、それぞれの特色を生かして存続できるとよいと思う一方で、通学時間を考慮する必要があるが、統合してよりよい学校ができるのであれば、それでよいとも感じている。
- 高校ではある程度の学級数がないと充実した教育そのものが難しくなることが想定される。当地域は、他地域と比べると小規模の高校が多いことから、通学環境も考慮して、近鉄沿線に高校を統合していくのがよいのではないかと。
- 通学時間は子どもたちにとって重要であり、鉄道など公共交通機関の利便性を考えると、どの場所に集約していくとよいのかは見えてくるのではないかと。

- アンケート結果を見ると、小学校、中学校、高校と校種があがるにつれて、だんだんと大きな集団の中で学び、多種多様な選択肢から自分にあったものを選んで社会に出ていくといった教育環境が求められているのは、今も昔も変わらないと感じる。こうした環境を維持するため、これまでに統合を行った高校のその後についての検証も行いながら、当地域の高校の再編について検討を進めてほしい。
- アンケート結果から、「積極的に統合すべき」、「一定の統合は避けられない」という回答が7割を超えており、当地域でも県立高校6校の再編も含めた検討を進めていかなければならない。
- 今後、統合を行う際には、今ある学びをそのまま残すのではなく、よりよい形で残すという発想が大切であり、時代にあわせて学びを充実させたり、新しい設備等に予算を投入したりして、魅力化を図ってほしい。
- 工業に限らず何かに特化した学びをつくり、その魅力を発信できれば、当地域の高校の魅力として定着していくのではないかと。「当地域で実現したい学びや育みたい力」として示されている「将来、地域産業を支える人材や地域で活躍する人材の育成」を可能にする環境づくりが必要であり、どこかに収束させるのではなく、生徒減の中で新しいものを生み出すという発想で考えるべきである。

【15年先の学びと配置のイメージについて】

- 中学校卒業生数が減少する中、県立高校の統合の必要性は理解しているが、地域外へ進学する生徒が多い当地域の状況への対応を講じたうえで、統合の議論をすべきではないか。
- 中学校卒業生数が減少する中で、いずれは現在の6校が統合していくのはやむを得ないが、15年後に2～3校になるという数字は、当地域の課題となっている流入の現状を前提とした学級数の予測に基づくものであるため、あえて外に出す必要があるのか。学びの集約を図る中で、工業科を新たに設置するなど、当地域の県立高校の魅力を高めて、少しでも多くの子どもたちが地域に残るようにしていくことが大切である。
- 将来の学校数については大切な話であるので、まとめの文面に残した方がよい。ただし、15年先に鈴鹿市に2校、亀山市に1校という学校数の表記については、数字が独り歩きしないよう丁寧な説明を付け加えるべきである。
- 15年先に鈴鹿市内の県立高校は2校程度、令和10年度に石薬師高校募集停止という報道内容が独り歩きしたことで、石薬師高校の在校生や進学を希望していた子どもたちがショックを受けたり、次はどの高校がなくなるのかといった不安が保護者の間で広がったりしている。この協議会が当地域の県立高校を活性化し魅力を発信していくためのものであるならば、15年先に想定される学級数は明記しないほうがよいのではないかと。
- 現在の進路状況をもとに想定した学級数は、今後変わりうるものであり、その数字が出てしまうのは怖い。地域外への流出を防ぎ、逆に他地域から集まるような新しい高校をつくってほしい。

- 地域の人手不足を解消するためにも、ぜひ工業科や商業科を設置してもらいたい。地域経済界としても、講師の派遣や設備の充実など何らかの支援をしていきたい。
- 四日市市や津市の専門高校は、鈴鹿亀山地域の子どもたちを含め、広く地域経済を支える人材を育成する役割を果たしてきた。現状の中学生の進路状況を考えると、当地域に新たに工業科を設置するのは現実的ではない。
- アンケート結果を見ると、生徒は、主に通学のしやすさや学びたい学科やコースがあることを理由に高校を選択しているが、地域外の工業科や商業科へ進学しているのは、通学しやすいからではなく、地域内にこうした学科がないことが大きな理由であると考えている。それを県教育委員会が、通えるところに選択肢があるからよいというのであれば、地域別に活性化協議会を設置して議論する意義がなくなるのではないか。
- 当地域では、中学校卒業者数に対して県立高校の定員が少なく、地域外の高校へ進学している生徒が多い。中学校卒業者数の減少により学校数が減っていくのは致し方ないが、工業科の設置などの対応をすることなく、現在の進路状況を前提として、鈴鹿市内の5校が15年先に2校になるというのは厳しすぎる。
- 中学校卒業者数が15年先に現在の6割程度となるのであれば、県立高校の定員も現在の6割の17学級程度となるのではないか。私立高校に流れることを想定して12～14学級としているのであれば納得できない。
- 県教育委員会は当地域に魅力ある高校をつくっていくという思いが足りないのではないか。例えば、飯野高校のように地域外からたくさんの生徒が集まる魅力的な高校をつくれば、想定される学級数が増えることもありうるのではないか。また、小中学校の学級編制標準が35人変わってきている中で、15年先までには高校にも導入される可能性が高いことも考慮すれば、15年先に12～14学級で、鈴鹿市内に2校程度という数字も不確定要素が大きい。
- 15年先に鈴鹿市に2校程度となったときに、大学進学ニーズに対応する高校は6学級を下回らないという条件や、当地域の特色ある学科やコース、定時制課程などがどのようになっていくのか想像がつかない。選択肢が少なくなると、中学校における進路指導も難しくなる。
- 「15年先の学びと配置のイメージ」における学校数については幅を持たせた書き方とし、次年度以降も引き続き協議してはどうか。
- これまで協議した学びと配置のあり方を実現するうえで、地域の高校を2～3校とするのであれば、総合大学のように1つの高校で多様な学びの選択肢があり、希望する進路や適性に応じてフレキシブルに学べるような、県内のどこにもない夢のある新しい高校を当地域につくることができないか。学びの数だけ学校があるというのではなく、できるだけ大きな規模の高校で地域の子どもたちを全て受け入れ、多様性に対応していくという考え方を大切にしたい。
- 15年先に3校に集約する前提として、今ある学科の魅力をさらに高めたり、当地域の産業に特化した工業科を設置したりするなど、他地域への流出を防ぐ方策を考える必要がある。また、交通の便を考えると、将来的にはもう少し広いエリアで学びと配置のあり方を考えていってもよいのではないか。

- 仮に学校が集約されるとしても、学力的に厳しい子どもなど、多様な子どもたちが迷わず選択できるような教育環境を維持してほしい。
- 15年後も、外国につながりのある子どもや特別な支援を必要とする子どもなど多様な子どもたちが、高校卒業後の進路も含めて、安心して学べる教育環境を実現していくというイメージを打ち出す必要がある。例えば、一つの学校の中で、全日制に入学したとしても、状況に応じて定時制や通信制に切り替えることができるような、新しい発想の学校をつくることはできないか。
- 子どもの数は決まっているので、地域間で取り合うことによって共倒れになってはいけないと思うが、せっかく鈴鹿亀山地域で協議をしているので、当地域に新しい校舎、新しい学科をつくって多様な選択肢を保障し、子どもたちにとって魅力的な高校をつくりたい。
- 生徒は市町の枠を越えて希望する高校や就職先を選択している。今後想定される学級数など、具体的な数字を示すことでより議論を進め、他地域よりも早く魅力的な再編の方向性を示したほうが、当地域に生徒が集まるのではないか。
- 15年先の県立高校のイメージが、マイナスとなってしまうといけない。当協議会のまとめとしては、地域の高校の活性化に向けた気運を盛り上げていく、というメッセージに必要があるのではないか。
- 「15年先の学びと配置のイメージ」については、数字を前面に出さずに「学びと配置のあり方の方針」に基づいて、具体的にどのような高校づくりをめざすのかを前向きに表現してもらいたい。

【令和10年度までに想定される学級減に対する具体的な対応について】

- 稲生高校では、入学後に自分の興味関心に応じて6つのコースを選択している。「工業等の学びについては、今ある学びを充実させる」とあるが、そうすることで今ある学びの選択肢が失われることのないよう、留意して進めてほしい。
- 工業等の学びについて、稲生高校のコースの充実を想定しているのであれば、普通科目の単位数が減ったとしても、できるだけ専門科目の単位数を増やすことで、充実を図ってほしい。
- 石薬師高校の募集停止というマイナスな話題がいきなり出てしまったと感じており、情報発信の仕方については、十分配慮してもらいたい。
- 石薬師高校が募集停止となった場合、石薬師高校への進学を希望する子どもたちの代わりとなる進学先があるのか心配である。
- 石薬師高校については、一気に募集停止とするのではなく1学級でも残してほしい。募集停止となっても、地域の中学校卒業者数に見合うだけの定員を置くから大丈夫というのではなく、石薬師高校での学びに魅力を感じて進学を希望する子どもたちの受け皿がほしいという、保護者の思いを理解してほしい。

- 亀山市からは、伊賀市のあけぼの学園高校や石薬師高校へ一定数の生徒が進学している。両校とも令和 10 年度に募集停止する案が示されているが、再編するのであれば、同校を希望していた子どもたちの進学先を保障するという意識は、必ず持ってほしい。
- 石薬師高校の募集停止案は寂しいが、15 年先を見据えて、スケールメリットを大切にしながら、多様性を受け止めることができる高校をつくっていくという方向性を打ち出したほうが、高校の職員も迷いなく前向きに魅力化に取り組むことができる。
- 石薬師高校が募集停止となったとしても、石薬師高校への進学を希望していた子どもたちを含めて、地域の県立高校がしっかりと受け入れ、幅広い学力層の多様な生徒に対応していこうと、地域の県立高校の校長で共有している。